

令和元年度荒尾市民病院第二期中期経営計画評価調書 【達成度】↑計画以上の実績 →計画どおりの実績 ↓計画を下回る実績

項目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
1. 当院の目指すべき姿 1 基本理念・方針	(1)「地域住民の信頼に応える病院」	① 地域の中核病院として、24 時間365 日、総合的な診療体制の維持	①高度医療、不採算・特殊部門に関わる医療や感染症医療等の政策的医療の充実 ②がん、脳卒中、急性心筋梗塞への対応の充実 ③運動器疾患、消化器疾患、腎臓疾患等への対応の充実 ④呼吸器疾患への対応の拡充 ⑤歯科口腔外科新設の検討	①②③診療科数:26診療科の維持・充実(小児科1名増加) R2.4より、耳鼻咽喉科の非常勤体制での診療開始 看護体制:7対1の維持・確保 平均在院日数:15.6日 ④⑤今後も大学医局等への継続的な要請を行い、常勤体制を目指す(呼吸器内科、泌尿器科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科については新病院開院時)	①↑ ②↑ ③↑ ④→ ⑤→	1-1-(1)-①
		② 安心して、必要な急性期医療と高度医療が受けられる病院	急性期病院として、重症な患者、難易度の高い手術への対応等、高度医療を提供する	・手術件数 H28_1,226 H29_1,321 H30_1,281 R1_1,236 ・高度医療機器の導入 画像情報システム(診断、治療RIS)、一般撮影装置、耳鼻咽喉科医療機器一式	↓	1-1-(1)-②
		③ 快適な療養環境の提供	①プライバシーの確保やバリアフリーにする等、患者にとって快適な療養環境の整備 ②スタッフの接遇(挨拶・言葉遣い等)の更なる向上	①環境整備委員会にて、病院パトロールを定期的実施し、その課題を洗い出し、改善策の提案及び実施することで快適な環境の維持に努めている ②継続的に総務課及び接遇委員会が中心となり職員研修や患者アンケート等への対応を実施している	①→ ②→	1-1-(1)-③

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
		④ 保健、医療、福祉における切れ目のないサービスの連携と提供	<p>①急性期医療を担うだけではなく、地域に不足している急性期後や回復期の機能を担い、慢性期、維持期との円滑な連携、介護や住まい、生活支援サービスの連携体制の強化</p> <p>②健診部門(健康管理センター)を強化し、特定健診やがん検診などの各種健診事業や大規模認知症コホート事業に積極的に取り組む</p> <p>③様々なサービスを提供し、健康な方々も利用できるような環境の確保、地域コミュニティーやまちづくりへの貢献</p>	<p>①相談支援センターを中心に地域連携の更なる推進を目指し、各職種共同で患者サービスの向上に努める</p> <p>②健診受診者数 H28_5,352人, H29_5,417人 H30_5,556人, R1_5,661人</p> <p>③新病院開院時に、地域コミュニティーやまちづくりに資する環境やサービスの確保を目指す</p>	<p>①→</p> <p>②↑</p> <p>③→</p>	1-1-(1)-④
		⑤ 市民の声を幅広く取り入れる「市民がつくる」病院づくり	市民の要望を積極的に病院づくりに生かし、また、現在も患者図書室の管理をはじめ一部で市民が参加する院内ボランティアなど、協働の病院づくりを推進する	<p>・患者アンケートに関して、毎月院内の会議で検討し、対応可能なものについて改善実施</p> <p>・患者図書室運営、近隣看護学校の生徒による清掃等でボランティアに参加していただき、協働の病院づくりを行なっている</p>	→	1-1-(1)-⑤

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
	(2)「やりがいを持てる魅力ある病院」	① 就労環境と医療の質を確保し、医師・看護師等を引き寄せる病院	①スタッフの休憩室等の設置や産休・育休、短時間勤務等による子育て世代への配慮、非正規雇用者等の処遇改善を実施し、働きやすい環境づくりを行う ②お互いを尊重できる風土づくりと温かい心を持った医療人の育成を図る ③公正な人事評価制度を構築し、努力や頑張りが適正に評価される仕組みを作る ④院内の医療従事者への教育、研修の充実を図るとともに、臨床研修医や各種実習生、再就業を目指している潜在看護師等、また、地域の医療従事者を対象に、個別の教育プログラムを展開する	①②③④人事等に関する規程の制定、改正を実施 地方公務員法に基づく人事評価制度を本格実施、運用中 さらに、昇任選考試験制度(医師以外)の運用を開始したことで公平公正な人事管理を実施しており、さらなる組織の活性化に繋がっていきたい ④看護師向けe-ラーニング研修導入し、継続中である また、継続して新人看護師の研修を行う際に、希望があった近隣医療機関の新人看護師と合同で研修を実施している	①↑ ②↑ ③↑ ④→	1-1-(2)-①
	(3)「地域医療を支え環境にやさしい病院」	① 災害時にも必要な医療を続けることができる病院	災害に強い施設整備と病院版BCP(事業継続計画)の策定、ヘリポートの設置など、大災害時における広域からの患者の受入にも対応できる体制を整え、災害拠点病院の指定を目指す	H30に荒尾市民病院BCPを策定し、全職員向けに研修を実施。さらに、H30の管理職向け机上訓練に続き、今年度は中間管理職向けに机上訓練を実施 また、R2.1.8付けでDMAT指定病院に指定され、R2.2.13付けで災害拠点病院の認定を受けている	↑	1-1-(3)-①

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
		② 地域を守るための体制づくり	<p>①地域医療支援病院としての安心できる地域医療のコーディネート</p> <p>②三次医療や高度先進医療を担う医療機関との連携、有明医療圏や大牟田市内の基幹病院との医療連携体制の強化、それぞれの病院の特長を生かした役割分担の推進</p> <p>③「医療福祉相談室」を強化による、入退院に関する各種相談などへワンストップ対応できる組織整備</p> <p>④「地域医療連携室」の体制や活動を強化、患者の紹介・逆紹介の推進、地域の医療機関との施設共同利用による医療連携の更なる促進</p> <p>⑤荒尾市在宅医療連携拠点(在宅ネットあらお)との相互連携による、急性期から慢性期や在宅医療への円滑な移行、施設等入所・在宅医療患者の急性増悪へ対応できる体制の構築</p> <p>⑥地域包括支援センターや保健センター等との相互連携による、医療、介護、福祉、保健の多職種連携の強化</p>	<p>①②④⑤患者の紹介 逆紹介の推進</p> <p>紹介率 H28_67.8% H29_65.1% H30_69.2% R1_67.0%</p> <p>逆紹介率 H28_115.7% H29_117.3% H30_129.0% R1_118.9%</p> <p>③相談支援センター職員の充実 H28_11人 H29_12人 H30_13人 R1_13人</p> <p>⑥地域医療連携の強化 地域医療連携懇親会の開催</p> <p>地域医療支援病院運営委員会(年4回)により、地域医療関係者の方への当院の状況報告並びに地域連携に関する提案等意見交換をする場を設けている</p>	<p>①→</p> <p>②→</p> <p>③→</p> <p>④→</p> <p>⑤→</p> <p>⑥→</p>	1-1-(3)-②
		③ 情報通信技術(ICT)の活用	ICTを活用した地域医療連携システムを構築し、検査や服薬等の診療情報を共有することで、地域の医療機関と連携した患者フォローアップを行い、医療の質を高める	①有明地域連携システム(ありあけネット) ②福岡県医師会診療情報ネットワーク(とびうめネット) ③熊本県地域医療等情報ネットワーク(くまもとメディカルネットワーク)の活用及び普及活動の実施	→	1-1-(3)-③

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
		④ CO2 削減等の環境対策や消費エネルギーを抑えたエコロジ施設	地域環境に配慮したエネルギー対策や廃棄物等の減量化を進める	院内の蛍光灯について、常時点灯している病棟の廊下に関してはすべてLED管に交換した。今後も、費用対効果を考えながら可能な限りLED管に交換している	→	1-1-(3)-④
	(4)「経営基盤が安定し地域を守り続ける病院」	① 健全で効率的な経営を行い、将来の地域医療を支え続ける持続可能な病院	①医療政策の動向等への柔軟な対応、全職員の経営意識の向上を図る ②収益性を確保し、更に良好な療養環境を提供することで、地域住民の医療サービスの向上と安定した経営を両立する	①経常収支比率 H28_107.1% H29_104.6% H30_102.4% R1_100.1% ②医業収支比率 H28_104.4% H29_102.5% H30_100.8% R1_98.1%	① ↓ ② ↓	1-1-(4)-①
2 担うべき医療機能(5 疾病5 事業等)	(1) がん		①地域がん診療連携拠点病院としての先進的ながん医療の導入や集学的治療の充実、緩和ケア機能の拡充による、外来通院等在宅での治療の支援 ②「がん医療連携室」の機能強化、がん医療に関する相談支援及び情報提供並びに地域の医療機関への支援強化 ③地域連携クリティカルパス「わたしのカルテ」の活用による、地域の医療機関医師との診断及び治療に関する連携協力体制の強化	①② 化学療法実施件数 H28_1,037件 H29_1,033件 H30_907件 R1_1,092件 就労支援相談の開始 パンフレット作製、掲示及び配布 ③「私のカルテ」導入件数 H28_21件 H29_16件 H30_16件 R1_45件 運用開始から累計で 167件 「私のノート」導入件数 H28_4件 H29_4件 H30_11件 R1_3件 運用開始から累計で、33件	① ↑ ② ↑ ③ ↑	1-2-(1)
	(2) 脳卒中		①24 時間対応できる体制の維持、外科的治療および内科的治療双方の更なる充実、救急患者への柔軟な対応のための施設の充実や人員の確保 ②患者の術後早期回復を図るためのリハビリテーション機能の充実	①脳卒中患者数 H28_272名 H29_304名 H30_286名 R1_338名 ②R2.3より回復期リハビリテーション入院料1を取得し、365日切れ目のないリハビリの提供をしている	① ↑ ② ↑	1-2-(2)

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
	(3)急性心筋梗塞		①急性心筋梗塞急性期拠点病院、有明医療圏で唯一、緊急心臓カテーテル検査に24時間対応できる病院としての、施設の充実や人員の確保 ②急性心筋梗塞回復期医療機関としての、心大血管疾患リハビリテーション等の充実	①心臓カテーテル検査 H28_163件 H29_187件 H30_190件 R1_154件 循環器内科医師数 H28_3人 H29_3人 H30_3人 R1_3人 ②心大血管疾患リハビリ数 H28_7,521件 H29_8,829件 H30_9,322件 R1_9,157件	①→ ②→	1-2-(3)
	(4)糖尿病		他疾患の治療への積極的な多職種での介入による早期回復促進、健康管理センターを中心に市や関係団体とも連携した生活習慣病予防(特定健診等)の充実	栄養指導件数 H28_1,031件 H29_993件 H30_1,028件 R1_972件 特定健診件数 H28_280件 H29_272件 H30_260件 R1_272件	→	1-2-(4)
	(5)救急医療		①救急医療体制維持のための、救命救急に関する医療資格者の確保、地域救命救急センターの指定促進 ②二次救急医療の救急告示病院としての、脳卒中や急性心筋梗塞、事故による搬送など、二次救急機能に特化した施設の充実や人員の確保	①②救急車搬送件数 H28_2,358件 H29_2,109件 H30_2,077件 R1_2,001件 うち重症事例数 H28_399件 H29_386件 H30_392件 R1_384件	①↓ ②→	1-2-(5)
	(6)小児医療		①新生児期から幼児期、学童期、思春期にいたる小児の一般・身体的疾患、発達障害についての診療及びサポート ②医師会や近隣中核病院との連携強化、地域の小児救急医療体制の強化	①②医師確保とともに、今後に向けて取り組んでいく R1.4～常勤医師1名増員 小児時間外診療については、小児輪番体制を医師会と協力して対応	①→ ②→	1-2-(6)

項目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
	(7) 周産期医療		地域周産期中核病院としての、快適な出産環境の充実、ハイリスク分娩にも十分対応できる体制整備	①②医師確保とともに、今後に向けて取り組んでいく 産婦人科常勤医師 2名の維持 H30より無痛分娩への対応を開始	→	1-2-(7)
	(8) 災害医療		①災害拠点病院の指定のための、施設の耐震機能強化など、災害に強い施設整備 ②大災害時における広域からの患者の受入にも対応できる体制の構築 ③水や電気等のライフライン、医薬品や食料等の災害備蓄の確保	①R2.1.8付けでDMAT指定病院に指定され、R2.2.13付けで災害拠点病院の認定を受けた なお、認定後初めての派遣も実施した ②H30に荒尾市民病院BCPを策定し、全職員向けに研修を実施。さらに、H30の管理職向け机上訓練に続き、今年度は中間管理職向けに机上訓練を実施、さらに災害に対応した体制強化につながった ③職員用の飲料水及び食料の備蓄を継続して補充・管理 また、災害用ベットを購入し災害時の患者受け入れに対応できるようにした	①↑ ②↑ ③→	1-2-(8)
	(9) 感染症医療		①第二種感染症指定医療機関としての、結核を除く二類感染症患者に対する入院医療、地域の各医療機関における院内感染防止や医療従事者の医療安全と感染防止に対する意識の向上 ②有明医療圏域内における新型インフルエンザ等のパンデミック対策としての、医師会をはじめとする地域の医療機関等との連携強化、当院を中心とした、有事の際に素早く対応できる医療体制の構築	①第二種感染症指定医療機関としての機能確保、さらに、2月以降より、新型コロナウイルス感染症対策にも取り組んでいる ②地域の医療機関と感染対策に関して相互に評価する連携をとっている。さらに、視察や研修等を行い、課題等を確認するとともに、有明保健所や医師会等と連携して、有事の際に対応できる体制を引き続き構築していく	①↑ ②→	1-2-(9)

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
3 診療体制等	(1)診療科		①既存診療科の堅持 ②呼吸器内科医師の常勤化 ③歯科口腔外科の新設	①②③医師確保とともに、今後に向けて取り組んでいく 新病院開設時には、呼吸器内科、泌尿器科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科の常勤化予定	①→ ②→ ③→	1-3-(1)
	(2)病床数	病床構成	①現在の病床数の維持、必要とされる医療機能の提供 ②一般(急性期)病床:230床程度 ③回復期リハビリテーション病床:40床程度	①②③現在の稼働病床数(256床)を維持 地域医療構想調整会議等で、今後も許可病床274床の必要性を説明 新病院実施設計においても、274床で進めている	①→ ②→ ③→	1-3-(2)
2. 経営基盤の安定 1. 地域医療構想を踏まえた役割の明確化	(1)地域医療構想を踏まえた当院の果たすべき役割	①診療機能の充実	①地域救命救急センターの指定を目指し、脳卒中、急性心筋梗塞を中心とした循環器系疾患の対応を充実 ②診療科を堅持するとともに、増加する需要にも対応できるよう体制を強化 ③心疾患及び脳疾患対応への更なる強化 ④「呼吸器系」についての常勤医師確保 ⑤高度医療、不採算・特殊部門に関わる医療や感染症医療等の政策的医療についての充実、災害拠点病院の指定	①②有明地域医療構想調整会議や有明地域保健医療推進協議会及び救急部会等において、地域救命救急センターの指定に関する現状説明や提案等の実施 ③継続的な医療の提供 脳疾患対応医師は5名在籍しているおり、365日24時間受入体制を整えている ④新病院開設時には、呼吸器内科医師の常勤医2名を採用予定 ⑤R2.1.8付けでDMAT指定病院に指定され、R2.2.13付けで災害拠点病院の認定を受けている	①→ ②→ ③↑ ④→ ⑤↑	2-1-(1)-①
		②急性期後の受け皿としての機能	回復期リハビリテーション病棟の充実、在宅復帰支援機能の強化	回復期リハビリテーション病棟入院医療管理料(I)の施設基準を取得するために、R2.3より365日のリハビリテーションの提供をしている また、回復期リハビリテーション病棟においては病床利用率の維持	↑	2-1-(1)-②

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
		③他の医療機関との機能分化・強化と連携	①地域医療連携システムの利用拡大 ②地域の医療機関、介護事業者との更なる連携による退院調整の円滑化、平均在院日数の短縮化(患者の早期在宅復帰)、紹介率等の向上	①②地域医療連携機能の向上 平均在院日数:15.6日 紹介率 :R1_67.0% 逆紹介率:R1_118.9%	①→ ②↑	2-1-(1)-③
		④快適な療養環境の整備	地域住民の医療サービス向上のための、快適な療養環境の整備	新築移転を控える中、患者さんからのご意見から実現可能なものから優先順位をつけ、整備に取り組んでいる	→	2-1-(1)-④
		⑤予防医療・健康づくり対策	健康管理センターの強化、市や関係団体との協力による、予防医療・健康づくり対策への積極的な取り組み	健診受診者数 H28_5,352人 H29_5,417人 H30_5,556人 R1_5,661人 平成28年度から導入したストレスチェックを院内職員を対象に実施中、ストレスの結果は本人へフィードバックし、高ストレス者及び希望者に対しては面談を実施している	→	2-1-(1)-⑤
		⑥安定した経営による良質な医療の提供	更なる経営的な体力の強化、収益性やライフサイクルコストを考慮した上での充実した施設の整備	新築移転を控える中、新規の設備投資は最小限とし、細やかな経費の節約や改善を病院全体で行っている	→	2-1-(1)-⑥
	(2)地域包括ケアシステムの構築に向けた当院の果たすべき役割		①地域医療連携の推進、介護施設等との更なる連携強化 ②新たな拠点地域が形成されるような施設整備	①熊本大学との「包括的連携協定」の締結、医師会等の関連団体と各種勉強会や研修会を通して、協力・推進を図っている ②新病院開院時に、地域コミュニティーやまちづくりに資する環境やサービスの確保を目指す	①→ ②→	2-1-(2)
	(3)一般会計との負担区分	総 額	490,275 千円	490,275 千円	→	2-1-(3)
		医業 救急医療	219,656 千円	228,764 千円	↑	2-1-(3)

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.			
大	中	小							
		収益的収支	収益						
			保健衛生行政経費	0 千円	0 千円	→	2-1-(3)		
			研究研修費 経営研修費	15,800 千円	11,127 千円	↓	2-1-(3)		
			追加費用負担経費	7,687 千円	6,244 千円	↓	2-1-(3)		
			基礎年金負担経費	92,447 千円	97,099 千円	↑	2-1-(3)		
			児童手当に要する経費	16,917 千円	17,560 千円	↑	2-1-(3)		
			基準外退職者増による経費	0 千円	0 千円	→	2-1-(3)		
			院内保育所の運営に要する経費	5,798 千円	3,187 千円	↓	2-1-(3)		
			公立病院改革の推進に要する経費	206 千円	129 千円	↓	2-1-(3)		
			収益的収支	医業外収益	建設改良(利息)	2,873 千円	2,434 千円	↓	2-1-(3)
					高度医療	64,983 千円	33,169 千円	↓	2-1-(3)
					小児医療	11,140 千円	11,430 千円	↑	2-1-(3)
					周産期医療	24,632 千円	24,632 千円	↑	2-1-(3)
					感染症医療	21,255 千円	21,255 千円	→	2-1-(3)
		資本費繰入収益			6,881 千円	33,245 千円	↑	2-1-(3)	

項 目				R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.	
大	中	小						
		資本的 収支	他会 計繰 入金	建設改良(元金)	0 千円	0 千円	→	2-1-(3)
				建設改良費	0 千円	0 千円	↑	2-1-(3)
	(4)医療機能等指標 に係る数値目標設 定と考え方	救急患者数		10,000 人	9,080 人	↓	2-1-(4)	
		救急患者数(うち入院)		1,668 人	1,918 人	↑	2-1-(4)	
		手術件数		1,280 件	1,236 件	↓	2-1-(4)	
		紹介率		66.0 %	67.0 %	↑	2-1-(4)	
		逆紹介率		105.0 %	118.9 %	↑	2-1-(4)	
		在宅復帰率(一般)		86.0 %	86.9 %	↑	2-1-(4)	
		在宅復帰率(回復期)		90.0 %	91.1 %	↑	2-1-(4)	
		臨床研修医受入人数(基幹型)		4 人	8 人	↑	2-1-(4)	
		臨床研修医受入人数(協力型)		12 人	4 人	↓	2-1-(4)	
2. 経営の効率化	(1)経営指標に係る 数値目標設定と考 え方 ① 収支改善に係 るもの	経常収支比率		103.1 %	100.1 %	↓	2-2-(1)-①	
		医業収支比率		101.8 %	98.1 %	↓	2-2-(1)-①	
		不良債務比率		-14.4 %	-9.8 %	↓	2-2-(1)-①	

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
		資金不足比率	-14.4 %	-9.8 %	↓	2-2-(1)-①
		累積欠損金比率	16.6 %	14.0 %	↑	2-2-(1)-①
	② 経費削減に係るもの	職員給与費対医業収益比率	57.2 %	60.8 %	↓	2-2-(1)-②
		材料費対医業収益比率	20.7 %	21.6 %	↓	2-2-(1)-②
		薬品費対医業収益比率	13.0 %	13.4 %	↓	2-2-(1)-②
		診療材料費対医業収益比率	7.4 %	8.0 %	↓	2-2-(1)-②
		③ 収入確保に係るもの	病床利用率	86.3 %	82.3 %	↓
	平均在院日数		16.5 日	15.6 日	↑	2-2-(1)-③
	1日当たり入院患者数		237 人	227 人	↓	2-2-(1)-③
	入院診療単価		45,074 円	47,639 円	↑	2-2-(1)-③
	1日当たり外来患者数		371 人	351 人	↓	2-2-(1)-③
	外来診療単価		17,524 円	19,104 円	↑	2-2-(1)-③
	④ 経営の安定性に係るもの	常勤医師数	40 人	43 人	↑	2-2-(1)-④
		現金保有残高	652 百万円	657 百万円	↑	2-2-(1)-④

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
		企業債残高	102,220 百万円	1,149 百万円	↑	2-2-(1)-④
	(2) 目標達成に向けた具体的取り組み ◆ 具体的な取り組み(一部に成果を挙げているが継続するものを含む)	①メディカルスタッフの確保 (過重労働対策含)	①基幹型臨床研修病院の指定 ②医学生、看護学生奨学金貸付制度を実施 ③院内保育所の設置 ④医療秘書の採用 ⑤非常勤医師等の雇用	①R1 2年_8名_1年_4名受入 ②R1 医師16名_看護師20名 ③④⑤現状を維持し、業務負担の軽減等に努めている	①↑ ②↑ ③→ ④→ ⑤→	2-2-(2)-①
		②人材の育成	①各種学会の教育関連施設の指定を目指す ②認定看護師や認定技師等の修得を支援(認定技師免許更新の更新料等一部負担) ③職員の各種学会や団体での発表を推進	①資格要件等を満たせるよう検討を行い、指定を目指している ②認定看護師1名取得(手術看護) ③R1実績 各種学会等に5座長、35演題の発表	①→ ②↑ ③→	2-2-(2)-②
		③能率給制度の実施 給与額の適正化	①人事評価制度の構築 ②能率給制度の導入・実施	①②人事等に関する規程の制定、改正を行い、地方公務員法に基づく人事評価制度を本格実施、運用中 さらに、昇任選考試験制度の導入(医師以外)を導入したことで公平公正な人事管理を行い、組織の活性化に繋げていきたい	①↑ ②↑	2-2-(2)-③
		④民間出身者の採用	職員採用において、民間病院をはじめとした民間企業出身者を採用	これまでと同様に新規採用において、新卒だけではなく、業務に応じて民間企業等の経験者も採用し、これまでの経験等を当院の今後に生かせるような体制を継続する 看護師_4名_診療技術部_1名 福祉職_6名	↑	2-2-(2)-④

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
		⑤民間委託の活用(価格交渉や院外一括供給方式)	①薬品・診療材料SPDシステムの継続 ②材料の価格交渉や後発医薬品採用の推進 ③検査試薬や内視鏡機器の保守委託やリース ④給食業務や外来医事業務等の委託	①前年度より診療材料SPD契約を更新したことで更なる価格削減につながっている。さらに、新病院開院時には薬品のSPD化も目指す ②後発医薬品指数、病院目標80%を達成 R1 91.7% ③試薬購入委託に関する契約の更新時期であり、入札したことで経費の節減につながった ④現契約内での業務を継続	①→ ②↑ ③↑ ④→	2-2-(2)-⑤
		⑥管理会計の実施	部門別原価計算等の実施	診療科別の原価計算を作成し基本的な方向性が決定したところである。次年度より報告方法を検討しているところである。 毎年度の事業計画について、翌年度に点検等を行い、現状を院内だけではなく、外部にも公表	→	2-2-(2)-⑥
		⑦平均在院日数短縮 病床利用率のUP	①病床管理委員会や病棟調整会議、看護師長ミーティングの継続 ②地域連携の充実、退院調整の円滑化	①相談支援センター職員による入院直後からの退院支援介入の実施 平均在院日数:15.6日 ②紹介患者増のため、地域内の医療・介護施設等への訪問の増加 紹介率 H28_67.8% H29_65.1% H30_69.2% R1_67.0% 逆紹介率 H28_115.7% H29_117.3%	①→ ②→	2-2-(2)-⑦
		⑧適正な診療報酬の確保	①診療報酬の算定漏れの防止 ②迅速な施設基準の取得	①医事課、査定委員会による請求業務の改善を図っている ②施設基準の取得(回復期リハビリテーション入院料1)	①→ ②↑	2-2-(2)-⑧

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
		⑨IT化の推進	①電子カルテの更新・継続 ②地域医療連携ネットワークシステムの利用者の拡大	①電子カルテを前年度更新したことで、随時新機能の活用を実施している。さらに、医療安全管理システムの新規導入したことで、医療安全に対する対応及び周知を迅速に対応することができている ②有明地域連携システム、福岡県医師会診療情報ネットワーク、熊本県地域医療等情報ネットワーク等を継続運用	①↑ ②→	2-2-(2)-⑨
		⑩予防医療・生活習慣病予防	①予防と早期発見に努め、重症化を防ぎ、地域住民の健康管理をサポート ②健診後の迅速・適正なフォローアップ	①健診受診者数 R1 5,661人 特定健診数R1 272人 大規模認知症コホート研究協力 ②健診後の精査等必要な方の予約調整等必要に応じて実施	①↑ ②→	2-2-(2)-⑩
		⑪感染症対策の指導的役割	①感染症に対する拠点機能を担う ②感染症対策に係る人材育成	①第二種感染症指定医療機関としての機能確保、さらに、2月以降より、新型コロナウイルス感染症対策にも取り組んでいる ②全職員に対して感染予防に関する研修等を実施している(年2回及びe-ラーニング) 認定看護師による地域医療、福祉機関への講義 6件実施	①↑ ②→	2-2-(2)-⑪
	◆ 新病院建設に向けての更なる取り組み	⑫職員数の適正化	①医療の質や経済効果を考慮した人員配置 ②委託職員や非常勤職員の効率的な配置	①②診療報酬対策と新病院の開院を見据えた効率的配置を行う為、新病院開院に向けた人員配置計画を策定し、順次採用している 医師事務作業補助者を採用し、医師の業務軽減に資することで、本来業務を効率化、収益増にも資する	①→ ②→	2-2-(2)-⑫

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
		⑬高齢者医療等に対応できる診療科の充実	①呼吸器内科医師の常勤医師化 ②各診療科医師数の維持・増員	①非常勤体制の呼吸器内科医師については、新病院開院時に2名の常勤医師を採用予定である ②当年度、小児科医1名を採用した	①→ ②↑	2-2-(2)-⑬
		⑭適正な病床数	①稼働病床256床の維持 ②新病院開院後274床の稼働	①②現病院では入院患者の療養環境を優先し、新病院では十分な病室の広さを確保し274床を活用する	①→ ②→	2-2-(2)-⑭
		⑮地域コミュニティやまちづくりへの貢献	地域に開かれた病院として、院内のホールや会議室等を地域の方々に活用いただき、また、市民の方々にボランティアや勉強会に参加いただける体制づくり	市民公開講座(8回)、心臓病教室(8回)の継続的な開催及び患者会開催による施設利用 今後は、新病院開院時に、地域コミュニティやまちづくりに資する環境やサービスの確保を目指す	→	2-2-(2)-⑮
		⑯光熱水費・燃料費の削減	燃料費や電気ガス水道代の削減	電力会社との契約変更により使用量の増加を価格面では抑制しているが、増加傾向にある H28_72,570千円 H29_75,133千円 H30_79,966千円 R1_77,567千円	↑	2-2-(2)-⑯
		⑰地域救命救急センターの指定	地域救命救急センターの指定	大学医局への訪問や、臨床研修医の救急医を目指すキャリアパスの支援等を実施し、救急医等常勤医師の増員を行い、新病院開院頃に指定を目指す 有明地域医療構想調整会議や有明地域保健医療推進協議会及び救急部会等において、現状説明や提案等の実施	→	2-2-(2)-⑰

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.	
大	中	小					
3. 再編・ネットワーク化				将来的に地域医療機関等と連携し、地域医療連携推進法人の導入を検討しなければならない 荒尾市や大牟田地域も含めての逆紹介を増加し、各医療機関との協力体制を強化し、結果として有明地域医療連携ネットワークの拡大にも繋げている	→	2-3	
4. 経営形態の見直し				中長期的視野での地方独立行政法人化に向けて、累積欠損金及び比率の減少を目指す H28 1,264百万円(21.6%) H29 974百万円(16.6%) H30 830百万円(13.9%) R1 828百万円(14.0%)	→	2-4	
5. 数値目標等 収支計画	(1)収益的収支の 状況	収 入	医業収益	6,123 百万円	5,918 百万円	↓	2-5-(1)
			料金収入	5,766 百万円	5,544 百万円	↓	2-5-(1)
			その他の医業収益	358 百万円	374 百万円	↑	2-5-(1)
			うち他会計負担金	213 百万円	229 百万円	↑	2-5-(1)
			医業外収益	323 百万円	328 百万円	↑	2-5-(1)
			他会計負担金	105 百万円	93 百万円	↓	2-5-(1)
			他会計補助金	126 百万円	135 百万円	↑	2-5-(1)
			国(県)補助金	19 百万円	23 百万円	↑	2-5-(1)

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.	
大	中	小					
			長期前受金戻入	11 百万円	11 百万円	→	2-5-(1)
			その他の医業外収益	62 百万円	66 百万円	↑	2-5-(1)
			経常収益	6,446 百万円	6,246 百万円	↓	2-5-(1)
		支 出	医業費用	5,937 百万円	6,034 百万円	↓	2-5-(1)
			職員給与費	3,460 百万円	3,595 百万円	↓	2-5-(1)
			材料費	1,274 百万円	1,279 百万円	↓	2-5-(1)
			経費	893 百万円	891 百万円	↑	2-5-(1)
			減価償却費	281 百万円	248 百万円	↑	2-5-(1)
			その他の医業費用	27 百万円	21 百万円	↑	2-5-(1)
			医業外費用	219 百万円	208 百万円	↑	2-5-(1)
			支払利息	10 百万円	5 百万円	↑	2-5-(1)
			その他の医業外費用	209 百万円	203 百万円	↑	2-5-(1)
			経常費用	6,156 百万円	6,242 百万円	↓	2-5-(1)
			経常損益	290 百万円	4 百万円	↓	2-5-(1)

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.	
大	中	小					
		特別損益	特別利益	0 百万円	2 百万円	↑	2-5-(1)
			うち他会計繰入金	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(1)
			特別損失	12 百万円	3 百万円	↑	2-5-(1)
			特別損益	-12 百万円	-1 百万円	↑	2-5-(1)
			純損益	279 百万円	3 百万円	↓	2-5-(1)
			累積欠損金	836 百万円	828 百万円	↑	2-5-(1)
			不良債務	流動資産	1,679 百万円	1,577 百万円	↑
		流動負債		1,090 百万円	1,277 百万円	↓	2-5-(1)
		うち一時借入金		0 百万円	0 百万円	→	2-5-(1)
		翌年度繰越財源		0 百万円	0 百万円	→	2-5-(1)
		当年度許可債で未借入 又は未発行の額		0 百万円	0 百万円	→	2-5-(1)
		不良債務		-909 百万円	-581 百万円	↓	2-5-(1)
	(2)資本的収支の 状況		企業債	276 百万円	166 百万円	↓	2-5-(2)
			他会計出資金	17 百万円	0 百万円	↓	2-5-(2)

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.	
大	中	小					
		収 入	他会計負担金	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(2)
			他会計借入金	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(2)
			他会計補助金	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(2)
			国(県)補助金	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(2)
			その他の収入	0 百万円	2 百万円	↑	2-5-(2)
			収入計	293 百万円	168 百万円	↓	2-5-(2)
			うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(2)
			前年度同意等債で 当年度借入分	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(2)
			純計	293 百万円	168 百万円	↓	2-5-(2)
		支 出	建設改良費	276 百万円	187 百万円	↑	2-5-(2)
			企業債償還金	309 百万円	279 百万円	↑	2-5-(2)
			他会計長期借入金返還金	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(2)
			その他の支出	37 百万円	46 百万円	↓	2-5-(2)
			支出計	622 百万円	512 百万円	↑	2-5-(2)

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
		差引不足額	329 百万円	344 百万円	↓	2-5-(2)
	補 て ん 財 源	損益勘定留保資金	0 百万円	237 百万円	↓	2-5-(2)
		利益剰余金処分額	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(2)
		繰越工事資金	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(2)
		その他の補てん財源	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(2)
		計	0 百万円	107 百万円	↓	2-5-(2)
		補てん財源不足額	329 百万円	0 百万円	↑	2-5-(2)
		当年度許可債で未借入 又は未発行の額	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(2)
		実質財源不足額	329 百万円	0 百万円	↑	2-5-(2)
		他会計借入金残高	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(2)
		企業債残高	1,694 百万円	1,149 百万円	↑	2-5-(2)
	(3)一般会計からの 繰入金の見通し	収益的収支	478 百万円	490 百万円	↑	2-5-(3)
		資本的収支	0 百万円	0 百万円	→	2-5-(3)
		合計	478 百万円	490 百万円	↑	2-5-(3)

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
	(4)各種数値目標 (再掲)	経常収支比率	103.1 %	100.1 %	↓	2-5-(4)
		医業収支比率	101.8 %	98.1 %	↓	2-5-(4)
		不良債務比率	-14.4 %	-9.8 %	↓	2-5-(4)
		資金不足比率	-14.4 %	-9.8 %	↓	2-5-(4)
		累積欠損金比率	16.6 %	14.0 %	↑	2-5-(4)
		職員給与費対医業収益比率	57.2 %	60.8 %	↓	2-5-(4)
		材料費対医業収益比率	20.7 %	21.6 %	↓	2-5-(4)
		薬品費対医業収益比率	13 %	13.4 %	↓	2-5-(4)
		診療材料費対医業収益比率	7.4 %	8.0 %	↓	2-5-(4)
		病床利用率	86.3 %	82.3 %	↓	2-5-(4)
		平均在院日数	16.5 日	15.6 日	↑	2-5-(4)
		1日当たり入院患者数	237 人	227.0 人	↓	2-5-(4)
		入院診療単価	45,074 円	47,639 円	↑	2-5-(4)
		1日当たり外来患者数	371 人	351 人	↓	2-5-(4)

項 目			R1 目標 (繰入金内訳は予算額)	R1 実績	達成度	No.
大	中	小				
		外来診療単価	17,524 円	19,104 円	↑	2-5-(4)
		常勤医師数	40 人	43 人	↑	2-5-(4)
		現金保有残高	652 百万円	657 百万円	↑	2-5-(4)
		企業債残高	10,222 百万円	1,149 百万円	↑	2-5-(4)